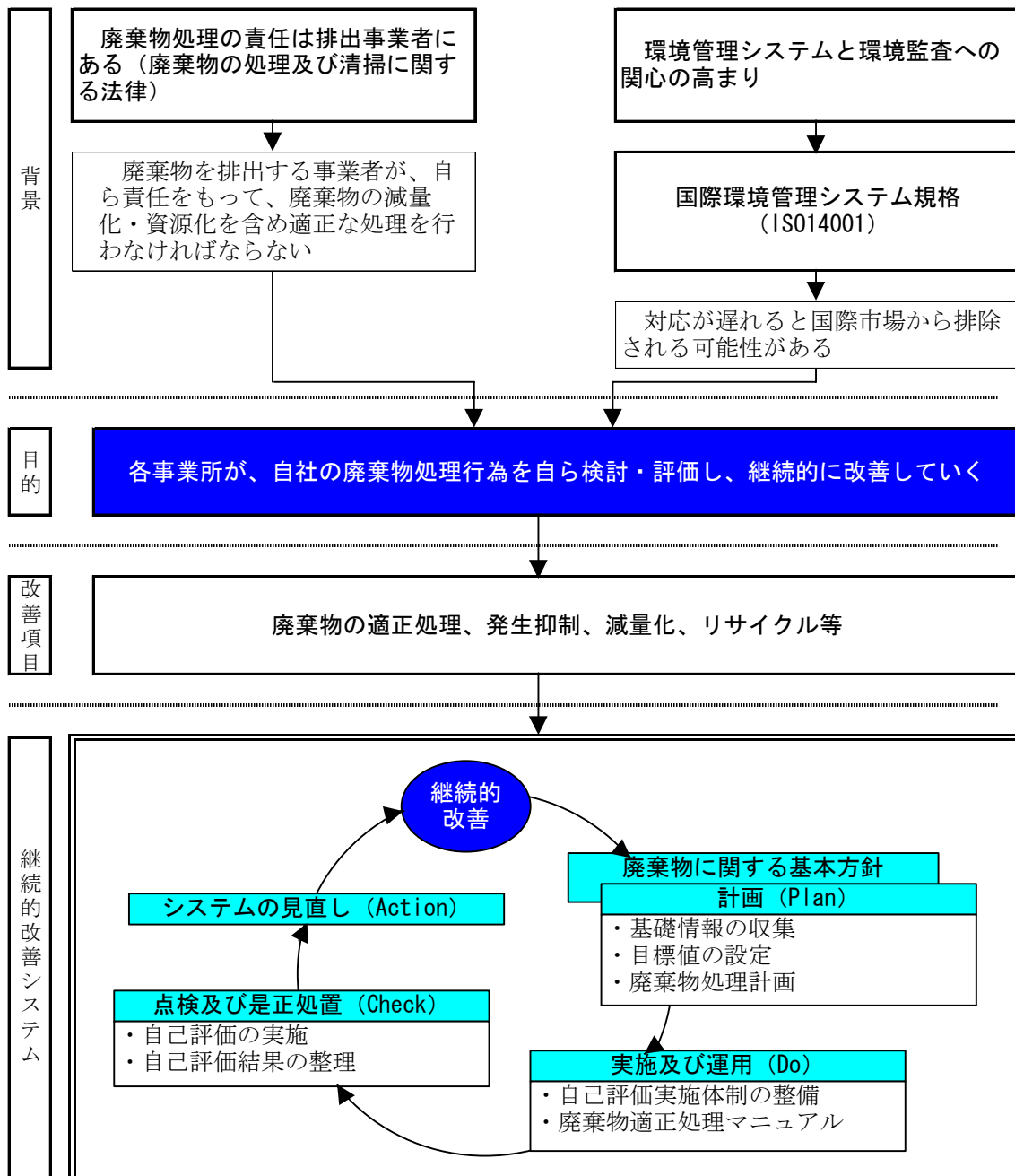


2 . 自己評価について

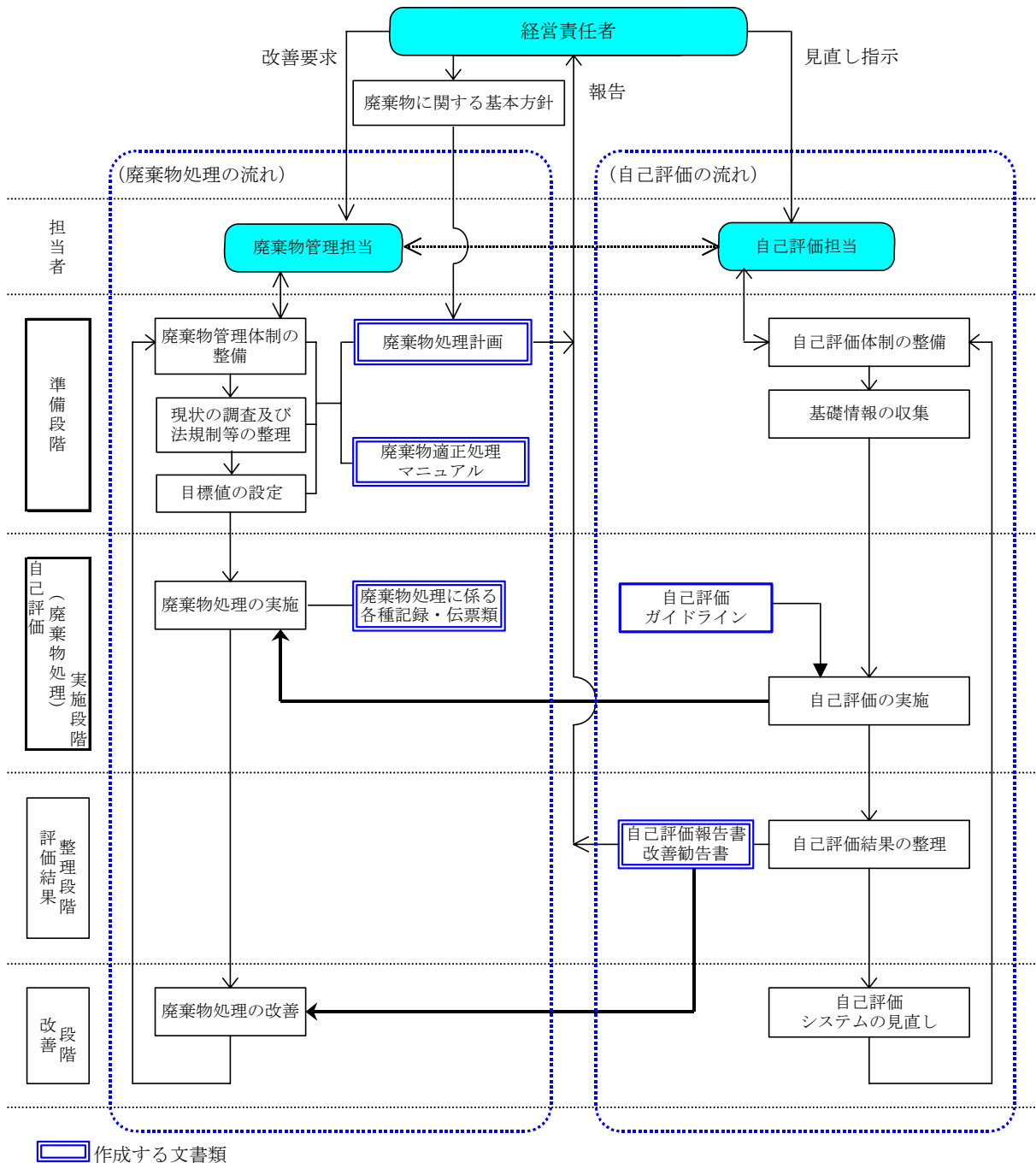
2.1 自己評価システムとは

各事業所が、廃棄物処理の責任者であるという自覚をもち、自社内で発生する廃棄物が適正に処理されているかどうかを、自ら検討・評価し、継続的に改善していく仕組みの事です。



2.2 自己評価システムの構成

自己評価システムは、廃棄物処理の流れと、自己評価の流れに分けられます。それぞれの流れは、準備段階、実施段階、整理段階、改善段階の4つの段階から構成されています。



2.3 自己評価システムの効果

自己評価を行うことにより、廃棄物処理の継続的な改善、廃棄物に係る危険性（リスク）等の管理、企業イメージの向上、環境に対する意識改革及び教育効果、環境対策等に係るコスト削減、国際規格化への対応等が期待できます。

廃棄物処理の継続的な改善

- 企業の廃棄物処理の現状や課題を把握することにより、改善すべき点を明らかにすることができます。
- 体系的、組織的、長期的に廃棄物処理に取り組んでいくことができます。
- 廃棄物の発生抑制、減量化、リサイクル促進の契機にすることができます。
- 廃棄物関連法案への適合性を確保することができます。

廃棄物によるリスク等の管理

- 廃棄物が及ぼす自然環境へのリスクを把握することにより、環境破壊等を起こすリスクを低減することができます。
- 廃棄物が及ぼす労働環境へのリスクを把握することにより、労働災害を未然に防止する可能性が高くなります。
- 経営責任者にとって、自社の廃棄物処理が適切に行われていることの保証となります。

企業イメージの向上

- ・消費者に対して「環境にやさしい企業」というイメージを与えることができます。
- ・廃棄物処理に対する企業イメージが向上し、社会的評価が高まります。

環境に対する意識改革及び教育効果

- ・全社的に廃棄物問題や環境問題に対する認識水準が高くなります。
- ・廃棄物の処理についての体系的な認識が可能となります。

環境対策等に係るコスト削減

- ・資源の浪費を防ぐこととなります。
- ・廃棄物の処分費用やエネルギーコストの削減が期待できます。

国際規格化への対応

- ・自己評価システムを環境管理システムの簡易版として導入することにより、国際規格である ISO14001 に対応することが容易となります。

2.4 IS014001 と自己評価システムとの関係

環境側面の内、廃棄物に関する事項のみを対象とした自己評価システムを、簡易的な環境管理システムとして IS014001 に準じて構築します。

